

第85回麻布獣医学会 一般演題16

安全・安心そして達成感ある牧場実習を目指して —獣医学科3年次—

入来 常德¹, 鈴木 武人¹, 新井佐知子², 金子 一幸¹

¹麻布大学獣医学部生産獣医学系, ²麻布大学獣医学部臨床獣医学系

【はじめに】

本実習の最大の目的は、家畜の生産現場において飼養管理、衛生管理を始めとする畜産経営全般を体験することにある。もう一つの目的は、大中家畜に接してその扱いに慣れることである。獣医学専攻学生にとって前者はもとより、後者も今後の臨床実習をスムーズに行うために重要である。今回は過去5年間に学生が提出した「牧場実習の概要」から、実習に対する学生の満足度ならびに受入れ先の実習生に対する評価等について分析したので報告する。

【方 法】

本学の牧場実習は夏季休暇中に実質10日以上行うもので、実習先は過去3年間の牧場リスト等を参考に、原則として学生が独自に選択・交渉し、先方の内諾を得た後、牧場実習カードに必要事項を記入し、担当教員に提出することから始まる。次に、提出された牧場実習カードに従って学部長名の公文書を発行し、大学として正式に依頼することになる。実習終了後は実習レポートを提出する。尚、2005年度から「実習レポート」と「実習先の概要」はいずれも製本し、就職支援課の部屋に通年公開している。さらに、同年に日本獣医生命科学大学の「富士アニマルファーム」で実習を継続している。

【結 果】

2009年度の実績では、「牧場実習の概要」を参考にして実習先を選択した学生が約半数を占め、次に親戚・知人の紹介が全体の1/3であった。インターネットで情報を得た学生は少なかった。実習先は北海道と関東が多く、次に東北と九州・沖縄の順であった。実習先戸数の合計は2005年と2006年度が60カ所であったが、2007年以降は40カ所に減少し、継続性の高い実習が可能になった。また、1戸数当たりの実習生の受入れでも北海道が2名から5名近くに増加したのが顕著であった。全体の平均でも若干ではあるが、2名から3名に増えている。馬は学生にとって魅力的な実習先であるが、毎年40名近くが選択していた。牧場主の本学学生に対する評価は概ね高く、優の評価は全体の75%であった。一方、学生による実習先の評価も概ね高く、2006年度を除けば、4.5に近かった。尚、2006年で低かったのはインターネットで実習先を探した学生が例年になく多かったことが原因である。

以上のことから、継続性の高い実習先を今後とも維持するには、教員の定期的な表敬訪問等を通して、牧場主とのコミュニケーションを高めていくことにより、学生への安全・安心そして達成感ある実習が確保できると思われる。